探究学習
伴走する教師たち

東京都・私立
多摩大学附属
聖ヶ丘中学高校
出岡由宇

たくさんの大人に会おう！地域の温かさの中で失敗を学びに変える生徒たち

探究学習の概要

町から学び、町で実践する地域課題解決型の探究学習

東京都・私立多摩大学附属聖ヶ丘中学高校では、高校1・2年次の毎週水曜日の午後、45分授業3コマ分と部活動の時間を充てて、学校周辺の地域課題を探究している。調べ学習にとどまらず、課題解決に向けたアクションにつなげているのが特徴だ。

1年次の「探究基礎」では、1学期に、探究学習における課題設定や情報収集の方法を学び、2学期以降は、地域住民へのインタビューやアンケートなどを行い、生徒は多様な大人と接する。2022年度は12月に、1年生が市民に多摩市に関する学びを発表する「街なかプレゼン期末テスト（＊）」を2時間にわたって実施し、生徒は400人の市民と質疑応答を行った（**写真**）。

2年次の「探究ゼミ」では、環境美化や条例策定、高齢者支援など、多摩市が抱える8つの課題のいずれかについての探究学習を、少人数のゼミ形式で展開。多摩市役所への政策提言や高齢者向けのスマートフォン講座の実施など、様々なアクションへとつなげていく。

同校の探究学習は、多摩市役所との緊密な連携の下で進められている。水曜日の午後には、多摩市役所の職員が「探究アドバイザー」として職員室に常駐。生徒の相談に乗るなど、探究学習をサポートしている。

生徒のリアル

探究学習を通して自分は変わった

高校2年生
A・Wさん

多摩市民の豊かな暮らしのための条例を提案するゼミに所属しています。最初の頃は探究学習に興味はなかったのですが、多摩市役所の方と話し合ったり、町の人の声を聞いたりするうちに楽しくなっていきました。2次元コードから回答するアンケートで高齢者の意見を集めようとしたために、思ったように意見が集まらなかったなど、失敗も多いです。先生から「高校生になって変わったね」と言われますが、探究学習でいろいろな大人と出会ったおかげだと思っています。

地域のために頑張ろうという気持ちになった

高校2年生
S・Kさん

1年生の頃は、探究学習に取り組む意義が分からず、なかなかやる気が起きませんでした。でも、熱心に取り組むゼミのメンバーに触発されたことや、12月の「街なかプレゼン期末テスト」で町の人たちからたくさん意見をいただいたことで、地域のために頑張ろうという気持ちになりました。2年生の今は、高校生ができる高齢者支援について考えるゼミに所属しています。秋に多摩市が開催する地域のお祭りに参加して、高齢者対象のスマホ相談を行う予定です。

＊「街なかプレゼン期末テスト」の様子は、こちらの動画で視聴可能。
https://youtu.be/b8gMRAXDFgQ

学校概要

設立　1989（平成元）年
形態　全日制／普通科／共学
生徒数　1学年約120人
2022年度卒業生進路実績　国公立大は、秋田大、山口大、愛媛大、高知大、鹿児島大、福山市立大に6人が合格。私立大は、青山学院大、学習院大、中央大、東京薬科大、東京理科大、法政大、明治大、立教大などに延べ282人が合格。専門学校進学3人。

停滞！混乱！葛藤！ 教師のリアル

生徒の探究学習は「失敗」があたり前！ 大切なのは失敗を「学び」に変える場をつくること

自らの挑戦を様々な大人に認めてもらうことで、生徒に自信をつけさせたい。それが学びへの意欲を高めることにもなる。そんな思いで、本校の探究学習は始まりました。地域に出れば、生徒は叱られたり、しんどい思いもしたりしますが、生徒が失敗するのは当たり前のことなのだと、教師間や多摩市役所の職員の方々とで目線合わせをし、生徒には、「失敗してもいい。挑戦に価値がある」と繰り返し伝えました。

実際、生徒たちは大いに苦労しています。地域の方向けのイベントを開催したけれども、告知の方法が悪くて参加者ゼロに終わり、生徒が落ち込んでしまったこともありました。しかし、互いの挑戦を認め合い、きちんと振り返る機会をつくれば、生徒にとって失敗は価値のある経験になります。なぜ失敗したのか、次はどうすればよいのかを考え、それを後輩たちに引き継ぐことで、生徒は「自分の失敗には意味があったのだ」と気づきます。多くの教師は「生徒には失敗経験も必要」と言いますが、失敗から学んだことを整理し、それを他者に共有する場を教師がつくってこそ、失敗に価値が生まれるのだと思います。

振り返りの時間も年間計画に組み込んでいますが、失敗が学びに昇華したかどうかは、一人ひとりの生徒に寄り添わなければ分かりません。そして、私に心の内を見せてくれる生徒もいれば、なかなか見せてくれない生徒もいます。そこで大切になってくるのが、多摩市役所の西村さんを始めとする様々な大人と生徒とのかかわりです。事実、探究学習においては、私よりも西村さんに心を開いて相談する生徒が何人もいます。

探究学習での、失敗にも大きな価値があるという考え方に立つまでには、生徒よりも私たち教師の方が時間がかかると思います。本校では、18年の夏から、「教師がまず探究学習を楽しむ」ことをコンセプトに、各教師が自身の興味・関心に沿って講座内容を決める夏季学習講座を開講しています。教師間で学びについての価値観を共有し、生徒と教師が失敗も含めて楽しみ、語り合う経験を土台に、現在の探究学習のカリキュラムを作り上げました。

生徒を地域に送り出すにあたって、私たち教師は、外部機関へのアポイントメントの取り方から、全員で学びました。西村さんとのつながりも、私が市役所にかけた1本の電話から始まりました。そうして1人、また1人と、地域とつながる教師が増え、その楽しさを職員室で語り合う中で、教師の顔つきが変わっていきました。生徒と同じように、私たち教師も探究学習を通して成長しているのだと思います。

まずは教師が探究学習を楽しむ経験を。それをきっかけに、教師同士の対話が始まるはずです。

いずおか・ゆう　同校に赴任して10年目。高校2学年主任。国語科。

高校生の探究学習が地域の未来を創る

多摩市　企画政策部　企画課
西村信哉

「探究アドバイザー」として、生徒の探究学習に伴走しています。高校生の活動には失敗はつきものですが、本当の失敗は何も挑戦しないことだと思っています。人前で話すことが苦手だった高校生が町中で大人に話しかけられるようになったことや、高校生と地域住民が市の施設を活用して地域の未来について対話していることなど、いずれも確かな成果です。探究学習を経験したことで、若い世代の投票率も上昇するかもしれません。地域の未来を創る力は確実に育まれています。